

幌延の歴史とともに歩んできた。 人のつながり支えられて。

創業90年の幌延の老舗

有限会社 大森商店

グループ／(有)北斗観光物産・(有)サロベツ商事



石炭と百貨の文字が見える昔の法被



酒店の趣漂う昭和40年代の大森商店

商店がない だからつくる

隣接する天塩町から、大正13年に天塩川沿いの川口に開拓者として入植した祖父大森喜一郎氏が、翌年、幌延市街で小売業を営むようになったのが、大森商店の始まりです。ということ、幌延で創業し今年で90年。町の町史を聞いてみると、ちょうど同じ年に幌延⇨問寒別の鉄道が開業。近代化の幕開けを告げた幌延は、現在の人口の3倍の約7,500人が住み、昭和10年には1万人を突破。鉄道は新たに羽幌線も開業し、ほどなくして酪産幌延工場(株)雪印メグミルク幌延工場の前身)も操業。活気溢れる町として発展を遂げていきます。

基幹産業の農業は、畑作から天候の影響を受け難い酪農へと転換し、砂白金や砂クロームの鉱山脈は石炭の発見につながり、軌道を持った幌延炭鉱が採掘されるなど、右肩上がりの経済が続いていました。昭和15年生まれの大森昭社長は、その最も賑やかだった30年・40年代の幌延をいまでも良く記憶しています。まさか自分の町が過疎化を迎えるとは思ってもみませんでした。

◆**幌延に商店がなかったから**
社長「当初祖父は開墾のため幌延に来たのですが、商店が一軒もなかったことから、急ぎょ小売りに転じた。いまの方はご存知ないかも知れませんが、その頃の買物は「ツケ」

当時の稚内信金の支店長さんから「分かりました。大森さんなら間違いなくやれるでしょう。土地だけ用意してください。この先の事業計画もお手伝いしますから」と言っていた。き、おかげさまで幌延にも宿泊の受け皿ができました。同旅館を平成13年に増築し、ビジネスホテル北斗荘へ改称しました。また、予約制で会合・宴会を承る北斗会館も平成16年から営業しています。

◆**需要のあるものは利用される**
社長「二代目の父は幌延の小中学校の教員(大森信夫校長)だったため、店のことは全部私がやりました。ところが父は大変難しい人で、私の事業計画にまったく賛成してくれないばかりか、銀行から融資を受けるための保証人の判も一度も押ししてくれませんでした。困りました。しかし、そういう時に温かい手を差し伸べてくれる方が現れたのです。旅館・ホテル・宴会料理を提供できる会館をつくらうと思い、(有)北斗観光物産(昭和61年設立)を建設する時でした。

それは私はどうしてもセイコーマート(平成7年開業)をやりたいからです。自分自身、商店を経営していますと良く分かります。小さな古めかしい個人商店では立ち行かないことを。その時は、赤尾社長(現セイコーマート代表取締役会長)が直々に「じゃあ私が開業資金をお貸ししますから、ぜひ大森さんにやっていただきたい。間違いなく幌延が便利になり、利益も確実に収められますよ」と借用することができたのです。

私は思いました。やはり、いちばん大切なことは「人とのつながり」であると。これまでたくさんのお会いに恵まれたこと、良い人脈を持てたことに感謝していると。恩返しをする意味でも、立ち上げた事業は成功させなければなりません。

ありがたいことに、まだ一度も放棄したり、頓挫して豊んだ商売はありません」

夢がない？ だったら持とう

もしも大森さんがいなかったとしたら「トナカイ観光牧場」は幌延に実現していなかったでしょう。昭和63年に家畜としてトナカイを飼うために放牧地を探し歩いていた青年、恩田猛氏との出会いによって、幌延に全国初のトナカイ牧場が誕生します。当時の上山町長が、自らが所有する牧場と農機具一式を無料で貸出すと宣言し、商工会長であった大森さんに檄を飛ばします。「あの青年の夢を実現するために何もしてやれないのか？」

◆**30年かけてようやく開花してきた**
社長「考えてみれば、幌延の冷涼で厳しい冬の寒さは、トナカイやサンタクロースにぴったりです。全国どこにもない牧場をつくる夢を私も共有しようと思い、応援隊長として町の有志に声をかけて資金を集め、株主にもなりました。おかげさまでなんとか幌延の知名度も上がってきたところで、娘(大森美香さん)が現在、トナカイ観光牧場のレストラ

ないから 何でもつくれる

商店は最も町の経済の影響を受けます。炭鉱は閉山、羽幌線は廃止、若者は都会へ流出し、離農する酪農家の数も増えて行くばかり。年々急カーブを描くように人口も減り、活

ン・ポロとパン屋のグラハムブレッツド、おみやげ雑貨を運営しています。他にも北斗荘、北斗会館、セイコーマートも任せています。ようやく幌延もトナカイなどで脚光を浴びるようになり、30年来育て続けてきた花が咲こうとしています。これまで私どもが行ってきた事業が、過疎化に悩んでいた幌延の振興のラストに役立つとすれば、それに勝る喜びはありません」

有限会社 北斗観光物産

- 昭和61年／有限会社 北斗観光物産設立
- 平成 7年／国立研究開発法人のための職員寮を建設
- 平成11年／トナカイ観光牧場オープン、売店を運営
- 平成13年／北斗荘増築、ビジネスホテル北斗荘へ改称
- 平成16年／予約制で会合・宴会を承る北斗会館開業
- 平成16年／トナカイ観光牧場にレストランを開業

有限会社 大森商店

- 大正14年／個人創業
- 昭和34年／大森昭氏、大森商店専従
- 平成 2年／法人化、資本金300万円 有限会社 大森商店設立
- 平成 2年／(有)大森商店代表取締役就任
- 平成 7年／セイコーマートほろのペドオープン(酒・タバコ・ホットシェフ)



幌延町を代表する観光施設 「ほろのペトナカイ観光牧場」



有限会社 大森商店
代表取締役 大森 昭 氏

昭和15年11月23日、幌延町にて長浦家8人兄弟の末っ子として生まれるも、生後まもなく高橋家の養子に。
昭和33年、稚内商業高校を卒業と同時に当時の(株)雪印幌延工場に勤務。
昭和34年、大森商店に勤務、ほどなくして大森家の養子となる。
昭和49年、妻たい子さんと結婚。二子を授かる。
昭和63年、幌延町商工会長就任。
平成17年、妻死去。現在は取締役の長女 美香さんが右腕として活躍する。